

第85回 簿記実務検定第 3 級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	小 口 現 金	当 座 預 金	売 掛 金
貸 倒 引 当 金	有 価 証 券	貸 付 金	建 物
買 掛 金	借 入 金	仮 受 消 費 税	売 上
受 取 利 息	固 定 資 産 売 却 益	仕 入	貸 倒 損 失
保 険 料	支 払 利 息	固 定 資 産 売 却 損	現 金 過 不 足

- 和歌山商店は建物に対する1年分の火災保険料 ¥78,000 を現金で支払った。
- 新潟商店では定額資金前渡法（インプレスト・システム）を採用することとし、小口現金として小切手 ¥35,000 を振り出して庶務係に渡した。
- 帳簿価額 ¥6,200,000 の建物を ¥4,960,000 で売却し、代金は小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- 石川商店に借用証書によって貸し付けていた ¥700,000 の返済を受け、その利息 ¥21,000 とともに同店振り出しの小切手で受け取った。
- 売買目的で富山商事株式会社の株式20株を1株につき ¥59,000 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥12,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- 得意先東西商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥40,000 が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥38,000 ある。
- 現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より ¥3,000 多かった。よって、帳簿残高を修正して、その原因を調査することにした。
- 福井商店は商品 ¥54,000（消費税 ¥4,000 を含む）を売り渡し、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜き方式により、仮受消費税勘定を用いている。

2

兵庫商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空欄のままにしておくこと。

取 引

1/月/8日 神戸郵便局で郵便切手 ¥9,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。

(伝票番号 No.22)

〃日 得意先明石商店から受け取っていた約束手形#6 ¥740,000 が満期となり、当店の当座預金口座に入金したとの通知を取引銀行から受けた。

(伝票番号 No.30)

3

大阪商店の下記の取引について、

(1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の買掛金勘定と給料勘定に転記しなさい。

(2) 買掛金元帳とA品の商品有高帳に記入して締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、買掛金勘定と給料勘定に転記するときだけ記入すればよい。

iv 商品有高帳の記入は、先入先出法によること。

取 引

1/月 9日 京都商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品 1,000個 @¥420 ¥420,000

B 品 1,000〃 〃〃170 ¥170,000

1/2日 奈良商店に次の商品を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手#4で受け取り、ただちに当座預金とした。

A 品 1,200個 @¥540 ¥648,000

C 品 700〃 〃〃250 ¥175,000

22日 京都商店に対する買掛金の一部について、次の小切手#8を振り出して支払った。

HA0008	小 切 手		大阪 2701 0914-027
支払地 大阪府大阪市西淀川区野里3-3-15			
株式会社 全商銀行大阪支店			
金 額		¥620,000	
大阪	上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください		
	大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻2-9-26		
	大阪商店		
	平成〇年1月22日	振出人 大阪花絵	
振出地 大阪府大阪市			

25日 本月分の給料 ¥150,000 の支払いにあたり、所得税額 ¥12,000 を差し引いて、従業員の手取額 ¥138,000 を現金で支払った。

30日 滋賀商店に対する買掛金のうち ¥300,000 について、同店あての約束手形#3を振り出して支払った。

4

次の各問いに答えなさい。

- (1) 次の文の に入る金額を求めなさい。

北陸商店（個人企業）の当期の収益総額は ¥4,340,000 で当期純利益は ¥240,000 であるとき、費用総額は ¥ a である。また、期首の資産総額は ¥2,870,000 負債総額は ¥1,540,000 であり、期末の負債総額は ¥1,630,000 であるとき、期末の資産総額は ¥ b である。

- (2) 北海道商店の手形に関する補助簿は、下記のとおりである。よって、

a. この補助簿の名称（ア）は次のうちどちらか、番号を記入しなさい。

1. 受取手形記入帳 2. 支払手形記入帳

b. 2月8日に約束手形#16を割り引いたさいの手取額は ¥248,000 であった。このときに手形売却損勘定に記入された金額を求めなさい。

（ ア ）

平成 ○年	摘 要	金 額	手形 種類	手形 番号	支 払 人	振出人また は裏書人	振出日		満期日		支払場所	て ん 末			
												月	日	摘 要	
1	19	売り上げ	250,000	約手	16	札幌商店	札幌商店	1	19	3	19	全商銀行札幌支店	2	8	割 引
2	8	売掛金回収	240,000	約手	21	小樽商店	北見商店	1	27	3	27	全商銀行小樽支店			

- (3) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

企業では、決算の概要を知りたい場合などに、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを、一つにまとめた表を作成することがある。この一覧表を という。

1. 試 算 表 2. 精 算 表 3. 仕 訳 帳

5

三重商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 決算整理仕訳を示しなさい。
- (2) 備品勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。ただし、勘定記入は、日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 損益計算書を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 851,000	当座預金	¥ 1,393,000	売掛金	¥ 1,500,000
貸倒引当金	7,000	繰越商品	550,000	備品	780,000
支払手形	704,000	買掛金	801,000	資本金	3,100,000
引出金	50,000	売上	7,560,000	受取手数料	89,000
仕入	4,894,000	給料	1,356,000	支払家賃	816,000
消耗品費	51,000	雑費	26,000	現金過不足 (貸方残高)	6,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥530,000
- b. 貸倒見積高 売掛金残高の2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥975,000 残存価額は零(0) 耐用年数は5年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

- d. 現金過不足勘定の ¥6,000 は雑益とする。
- e. 引出金勘定の ¥50,000 は整理する。

第85回 簿記実務検定 3級 商業簿記 [答案用紙]

1	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		
h		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	5 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	---------	-----

試験場校	受験番号

<u>入 金 伝 票</u> 平成○年 月 日										No. _____	
科目		入金先		股							
摘 要				金 額							
合 計											

<u>出 金 伝 票</u> 平成〇年 月 日 No. _____			
科目		支払先	殿
摘 要		金 額	
合 計			

振 替 伝 票 平成○年 月 日															No.	
勘 定 科 目				借 方				勘 定 科 目				貸 方				
合 計								合 計								
摘要																

(1)

仕 訳 帳

1

[illegible]

帳 元 定 勘 総

金 掛 買

9

[illegible]

給 料

15

平成年	摘要	仕手	借方	平成年	摘要	仕手	貸方

(2) (注意) 買掛金元帳と商品有高帳は締め切ること。

帳元金掛買

京 都 商 店

1

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借はまた貸 は	残高
/ /	前月繰越		620,000	貸	620,000

滋 賀 商 店

2

平成 ○年	摘要	借方	貸方	また貸 借は	残高
/	/		360,000	貸	360,000

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品 名	A	品
-----	---	---

単位：個

[illegible]

4

(1)

a	$\frac{2f}{f}$	b	$\frac{2f}{f}$
---	----------------	---	----------------

(2)

a	b	$\mathcal{F}$
---	---	---------------

(3)

2

得点

3

得点

4

得点

5

(1)

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		

(2) (注意) 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備 品		6
1/1 前期繰越	780,000	

(3)

損 益 計 算 書

三重商店

平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価		売 上 高	
給 料		受 取 手 数 料	
()		()	
()			
支 払 家 賃			
消 耗 品 費			
雑 費			
()			

5

得点

1	借 方		貸 方	
	借	方	貸	方
a	保 険 料	78,000	現 金	78,000
b	小 口 現 金	35,000	当 座 預 金	35,000
c	当 座 預 金	4,960,000	建 物	6,200,000
	固定資産売却損	1,240,000		
d	現 金	721,000	貸 付 金	700,000
			受 取 利 息	21,000
e	有 価 証 券	1,192,000	当 座 預 金	1,192,000
f	貸 倒 引 当 金	38,000	売 掛 金	40,000
	貸 倒 損 失	2,000		
g	現 金	3,000	現 金 過 不 足	3,000
h	売 掛 金	54,000	売 上	50,000
			仮 受 消 費 税	4,000

2

入金伝票
平成〇年 月 日
No. _____

科目	入金先	金額
摘要		
摘要		
摘要		
合 計		

出金伝票
平成〇年 1月 18日
No. 22

科目	支払先	金額
摘要		
摘要		
摘要		
合 計		

振 替 伝 票		No. 30	
平成〇年 1月 18日			
勘 定 科 目	借 方	勘 定 科 目	貸 方
当 座 預 金	7 4 0 0 0 0	受 取 手 形	7 4 0 0 0 0
合 計	7 4 0 0 0 0	合 計	7 4 0 0 0 0
摘要 得意先明石商店から受け取っていた約束手形 # 6 が満期となり、当座預金に入金			

3

(1)

仕 訳 帳

1

平成〇年	摘要	借 方	貸 方
/ / 9	前期繰越高 (仕入)	3,840,000	3,840,000
	(買掛金)	590,000	
12	(当座預金)	9	590,000
	(売上)		823,000
22	(買掛金)	9	620,000
	(当座預金)		620,000
25	(給料諸口)	15	150,000
	(所得税預り金)		12,000
	(現金)		138,000
30	(買掛金)	9	300,000
	(支払手形)		300,000

総勘定元帳		9	
買掛金			
平成〇年	摘要	借 方	貸 方
1 / 22	当座預金	1 620,000	/ / 前期繰越 980,000
30	支払手形	〃 300,000	9 仕入 590,000

給 料		15	
平成〇年	摘要	借 方	貸 方
1 / 25	諸 口	1 150,000	

85 - 3 級解 - 1

85 - 3 級解 - 2

(1)

平成 〇年	摘要	借方	貸方	借方 貸方	残高
/	前月繰越			620,000	620,000
9	仕入			590,000	1,210,000
22	支払	620,000			590,000
31	次月繰越	590,000			
		1,210,000		1,210,000	

d	現金過不足	6,000	雜 益	6,000
e	資本金	50,000	引 出 金	50,000

備品 6

(先入先出法)		商 品 有 高 帳		單位：圓
		品 名	A	品
			360,000	360,000

平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日まで

[illegible]

(i) 貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。
(ii) 当期純利益の記入は、赤記でもよい。

a	2	4, 100, 000	b	2	3, 200, 000
---	--------------	-------------	---	--------------	-------------

a	1	b	2,000
---	---	---	-------

2